夢中 熱中 青春ライフ！ クロススター⑯

佐々木邦満さん（マウンテンバイク）

風を感じながらオフロードを駆けるマウンテンバイク。太くて溝の深いタイヤに制動力の強いブレーキ、二十段を超すギアを装着した〝硬派〟の自転車で、「自然と一体感が味わえる」と子供から大人まで幅広い層で人気が高まっています。今回は、七月に行われた全日本選手権で五位入賞を果たした粕田の佐々木邦満さんにマウンテンバイクの魅力について伺いました。

3回目の挑戦で全国大会に入賞

マウンテンバイクを始めてから三年目になります。息子の翼（矢立小五年）に「マウンテンバイクがほしい」とせがまれたのが興味を持ったきっかけです。その年に知り合いの自転車屋さんから「安比で全日本選手権があるから出てみないか」と誘われて、ダウンヒル（滑降）に出場しました。経験が全くなかったのでトラブルが続出、完走がやっとという状態でした。それで「よしやってやろう」と決意して、去年は十六位、今年は五位に入賞しました。

種目は、ダウンヒルのほかスラローム、クロスカントリーなどがあります。ダウンヒルだと時速九〇キロに達することもありますから、かなりハードですよ。

近くの河原で練習です

大会も結構多いんですよ。翼とは毎年、峰浜村で開かれる大会に出場しています。今年は五月に開かれ、私がクロカンで六位、翼はジュニアの部で優勝しました。

賞状を手にする邦満さんと翼君

ゴールした瞬間 みなぎる充実感

ゴールした瞬間は「たまらない」という感じです。この充実感は競技に参加した人でないと分からないと思います。私は「きりたんぽレーシング」というクラブに所属していますが、大館には愛好者が少ないですね。もっともっと多くの人にマウンテンバイクの楽しさを知ってほしいし、ゴールの充実感も味わってほしいですね。また、私自身も体力の続く限り、翼と一緒に競技を続けていきたいと思っています。

仙台発 ➡ 大館着

前略 大館市民になりました⑰

▽今回は八坂町の佐藤喜美男さんご一家です。

Q・ご家族は何人ですか？

妻と大館一中一年の長女洋美（ひろみ）と城西小三年の長男雄喜（ゆうき）の四人です。

Q・どちらから転入されましたか？

去年の三月に仙台市からです。出身は私が秋田市で妻が埼玉県の大宮市です。

Q・大館の印象はいかがですか？

引っ越してきた当初、長木川沿いを歩いたんですが、まだ雪が残っていて一面が白い世界。正面には鳳凰山の「大」の字がくっきり見えて、妻は「わあ、何てきれいなんだろう」と思ったそうです。ただ、中心街には若い人の姿があまり見られないせいか、沈んだイメージだな、と感じました。まあ、仙台から移ってきたばかりということもあったんでしょうけれども。

Q・言葉や食べ物などでとまどいはありませんか？

私はもともと秋田ですから、妻に答えてもらいますね。「会話の流れでほとんど理解できますよ。子供たちは言葉を覚えるのが早くて、順応性には感心しています。あと、ハタハタずしにはちょっとびっくり。握りずしを想像していましたから」

Q・大館にどんなことを望みますか？

若い人が発言したり行動したりしやすい環境をつくってほしい。それと、街づくりは自分がやる、という気持ちをみんなが持てばいいなと思っています。

喜美男さんと奥さんの洋子さん、洋美さんと雄喜君です